

# 世界の人事は こうなっている

リクルートワークス研究所 グローバルセンター長 村田弘美



第8回

## 人材を発掘する「ソーサー」の育成 (ハンガリー)

今回は、6月12、13日に、ハンガリーの首都ブダペストで行われた「ソーサー」のイベント、SourceCon（以下、ソースコン）について紹介します。

日本では聞き慣れませんが、欧米には、企業が採用を行う際に人材を発掘するソーサーという専門職があります。簡単にいうと、採用テクノロジー、とくに情報検索技術や最新のソーシングツールを駆使して、インターネット上にある情報のなかから、企業の求める人物像に近い、またはそれ以上の人材を発掘する、という職種です。たとえば、世界中からエンジニアを発掘し、リスト化してリクルーターにつなぐというように、採用の基幹的なプロセスを担います。

欧米も、日本と同じように高度専門職の人材不足が顕著で、旧来の方法——求人広告を掲載して、応募を祈って待つ（Post&Pray）だけでは、候補者を獲得できなくなっています。そのため、人材を積極的に探すソーサーの重要度が高まっているのです。

ソースコンは今年で11回目。今回、初めて欧州で開催されました。米国開催に比べると参加者数

は半分ですが、それでも欧州を中心に、34カ国から約300人のソーサーらが集結しました。主催のERE Mediaが提供するイベント用アプリWhovaを使えば、全体のスケジュールの共有だけでなく、ほかの参加者のプロフィールや名刺の取り込み、講演者とのメッセージ交換、ツイッターへの投稿、写真共有などを利用できます。また、夜には「グランドマスターチャレンジ」というソーシング力を競うコンテストもありました。

ソースコンは、ソーサーの育成の場としても貴重な存在です。採用テクノロジーの分野では、頻繁に新しいツールが開発されるため、どのような方法でソーシングするのがよいのか、最適化の方法は常に変わっていきます。そのため、企業はタイムリーにソーサーの教育訓練やフォローを行うことが難しく、新しい情報や手法を把握しておかないと、競合他社に遅れをとるのではないかという危機感があります。ソーサーを20人以上配する企業もありますが、1人から数人の企業が多く、育成まで手がまわらないのが現状です。

今回のソースコンでは、開催国

以外にも、近隣国のドイツ、イタリア、チェコ、またオーストラリアなどの企業から、勉強のために1人で参加するソーサーも多数いました。主催者側のスタッフは、参加者を孤独にしないために、朝食や昼食時、講演の合間にも気にかけて、ネットワーキング機会も多く提供していました。

ソースコンが、実際にはどのような育成機能を果たしているかという、ソーシングをするためのさまざまなツール、その技術と利用方法、ちょっとしたコツなど、あらゆる情報を惜しげもなく提供、共有しています。高い実績をもつトップクラスのソーサーが登壇し、ふだんのような1日を過ごしているのか、そのスケジュールやソーシングの方法、使用しているツールまで開示していたりもします。

日本では、競合を含む他社に詳細な情報や自分で工夫して得たノウハウなど、自分の手の内を見せることはあまりしないと思うのですが、変化が激しい新しい職種で人を育てるには、そういった“常識”を超えて、ともに学ぶことが非常に重要だと感じました。